

旅行取扱状況の概観(令和元年5月分)

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト北海道、近畿日本ツーリスト東北、近畿日本ツーリスト関東、近畿日本ツーリスト首都圏、近畿日本ツーリスト中部、近畿日本ツーリスト関西、近畿日本ツーリスト中国四国、近畿日本ツーリスト九州、近畿日本ツーリストコーポレートビジネス、KNT-CT グローバルトラベル、KNT-CT ウェブトラベル、クラブツーリズム、ユナイテッドツアーズ、KNT 商事の合算額となります。(※下線部分が7月31日訂正箇所です)

記

海外旅行の取り扱い、学生団体は前年比103.3%と前年を上回ったが、一般団体は同70.6%と前年を下回り、団体旅行合計で同76.1%と前年を下回った。企画旅行については前年比144.8%と前年を上回り、個人旅行については同106.0%と前年を上回った。

この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比123.4%と前年を上回った。

国内旅行の取り扱い、学生団体は前年比100.2%と前年並となったが、一般団体は同97.4%と前年を下回り、団体旅行合計で同99.4%と前年を下回った。企画旅行については前年比124.9%と前年を上回り、個人旅行については同96.5%と前年を下回った。

この結果、国内旅行総取扱額としては、前年比111.3%と前年を上回った。

外国人旅行は、前年比120.2%と前年を上回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の5月の総取扱額は前年比115.2%となり、前年を上回った。

【区分別の状況】

1. 海外旅行

海外団体については、学生団体は、研修旅行などの修学旅行外において取扱人数が減少したが、修学旅行の取扱人数が増加したことにより、前年比103.3%と前年を上回った。一般団体は企業系コンベンションや招待旅行などの取扱人数の減少に加えて、前年のSIT型大型イベントの影響減により同70.6%と前年を下回った。この結果、海外団体旅行合計で前年比76.1%と前年を下回った。

海外企画旅行については、10連休となったゴールデンウィーク効果もあり、前年比144.8%と前年を上回った。商品別では、ホリデイは方面別取扱人数の状況で、中国を除いた方面において押しなべて好調に推移した。クラブツーリズムは、東南アジア(マレーシア、タイ)、北米、ハワイ、カナダ方面は不調であったが、ヨーロッパ(南欧、東地中海、ロシア、バルト三国)、南米方面が好調に推移し、前年から大きく伸ばす結果となった。

以上の結果、海外旅行の総取扱額としては、前年比123.4%と前年を上回った。

2. 外国人旅行

外国人旅行は、前年の大型学会の影響減があったが、海外エージェントからの受注の増加や個人旅行の宿泊商品およびレールバスが好調に推移し、前年比120.2%と前年を大きく上回った。

3. 国内旅行

国内団体については、学生団体は、研修旅行などの修学旅行外において取扱人数が減少したが、修学旅行の取扱人数が増加したことにより、前年比100.2%と前年並となった。一般団体は、企業系コンベンションなどの取扱人数が増加した一方で、前年開催の大型展示会の影響減より、同97.4%と前年を下回った。この結果、国内団体旅行で前年比99.4%と前年を下回った。

国内企画旅行については、10連休となったゴールデンウィーク効果もあり、前年比124.9%と前年を上回った。商品別では、メイトは方面別取扱人数の状況において、北海道や沖縄、甲信越方面を中心に総じて好調に推移した。クラブツーリズムは、方面別では、北海道(道北、道東)、北東北、関東・佐渡、東海・伊勢・南紀、関西(京都、兵庫)、山陽、九州、沖縄が好調に推移した。

以上の結果、国内旅行の総取扱額としては、前年比111.3%と前年を上回った。

以上